神奈川県

平成24・25年度研究

幼児期の教育と小学校教育をつなぐ

スタートカリキュラム
作成ガイドブック

神奈川県立総合教育センター

はじめに

近年、児童が小学校入学後に学校生活への不適応を起こす小１プロブレムの解消や、子どもの発達や学びの連続性を保障するために、幼児期の教育と小学校教育の連携や円滑な接続を図ることが求められています。

平成21年度から全面実施された幼稚園教育要領と平成23年度から全面実施された小学校学習指導要領においては、幼稚園と小学校が、幼小接続に関して互いに留意する旨が示されています。また、平成21年度から適用された保育所保育指針においても、小学校との積極的な連携を図るよう配慮することが示されています。

神奈川県立総合教育センターでは、平成17年度に「幼・小、小・中の校種間連携の研究」に取り組み、その中で生活科を取り上げ、幼小連携のカリキュラム開発を行いました。

平成24・25年度の２年間は、新しい学習指導要領や幼稚園教育要領、保育所保育指針の趣旨を踏まえ、幼小連携・接続の在り方を探るための研究に取り組みました。幼児期の教育と小学校教育の滑らかな接続を図るため、幼児期の教育について理解を深め、その上で小学校の入学期に、児童が小学校生活へ適応してくための具体的な手立てを探ることとしました。

本冊子は、幼小の円滑な接続を図るための具体的な手立ての一つであるスタートカリキュラムの作成に向けて、大切にしたい考え方やねらい、入学期の具体的な活動例等を掲載しています。

本冊子が、各学校におけるスタートカリキュラム作成に活用していただければ幸いです。

結びになりますが、研究を進めるに当たり、ご指導、ご助言を頂いた文部科学省の津金美智子教科調査官、ご協力頂いた中教育事務所、平塚市教育委員会、平塚市立港小学校・港幼稚園・須賀保育園、平塚学園松風幼稚園、社会福祉法人徳栄会花もんもん保育園の皆様に深く感謝申し上げるとともに、心より御礼申し上げます。

平成26年４月

神奈川県立総合教育センター
所　長　　林　誠之介

＝ 目 次 ＝

◆　はじめに
◆　目　　次

第１章　スタートカリキュラムとは・・・

１　スタートカリキュラムの基本

２　「キャッチ」すること

３　入学期全体のとらえ方

第２章　スタートカリキュラム作成上のポイント

１　作成に当たって大切にしたいこと

２　環境の構成を工夫すること

３　実践上の配慮事項

コラム　津金調査官からのメッセージ

第３章　スタートカリキュラムの具体な活動例

１　週案・活動案の構成とポイント

２　第１期の週案・活動案

３　第２期の週案・活動案

４　第３期の週案・活動案

◆引用文献・参考文献◆

第１章

スタートカリキュラムとは・・・

児童の小学校生活への適応を図るためのスタートカリキュラムとはどのようなものなのでしょうか。

第１章では、スタートカリキュラムの全体像を捉えるために必要な、基本的な事柄、児童の実態を把握する方法、ねらい等を解説します。

① スタートカリキュラムの基本

子どもの発達や学びの連続性を保障するために、幼小が円滑に接続することが求められています。スタートカリキュラムは、幼小の円滑な接続を図るための手立ての一つです。

スタートカリキュラムとは・・・

児童が義務教育の始まりにスムーズに適応していけるようなカリキュラムを構成することです。例えば，小学校第１学年において，教科を横断した大単元から各教科の単元へと分化していく教育課程を編成することが考えられます。

「小中学校新学習指導要領Ｑ＆Ａ　ｐ22」（文部科学省 2011）より

Q.　なぜ、作る必要があるの？

小学校生活にスムーズに適応するとは、児童が小学校の新しい環境に慣れ、ルールを理解し小学校で生活できるようになること、そして、望ましい人間関係を通して、小学校が自分たちの新しい生活の場であると、児童自らが実感を伴って自覚した状態のことをいいます。

児童のこうした姿を実現させるために、スタートカリキュラムを作成します。

Q.　期間はどれくらい？

スタートカリキュラムの期間は、各学校で設定します。一般的に、スタートカリキュラムの期間は、入学式当日から７月下旬頃までとされますが、本冊子では、３月下旬頃から７月中旬頃までを「入学期」と設定しています。

３月下旬頃から入学式当日までは、スタートカリキュラム作成の準備期間として位置付けます。

Q.　何を作ればいいの？

入学期の授業そのものが、スタートカリキュラムといえます。

本冊子では、約４カ月にわたる入学期を三つの期間に分け、各期間において、教師が主に意識したいねらいを設定しています。

スタートカリキュラムとしては、適応に必要なねらいを設定し、見通しをもって入学期の指導計画を立てます。さらに、日々の授業においても、適応に向けた視点をもって指導案を作成します。

Q.　誰がつくるの？

１年担任が中心となりますが、学校長、教頭、教務主任、養護教諭、特別支援学級担任、児童指導担当者等と、新入学児童に関する情報を共通理解しながら、作成します。

各教科等の年間指導計画は、教科主任を中心に、学年・学校全体で作成し、週案や毎時間の活動案は、１年担任が作成すると良いでしょう。

Q.　期待できる効果は？

適応を意識し、見通しをもって教育活動を行うことで、児童は、スモールステップを踏みながら、徐々に小学校生活へ適応していくことができます。

また、見通しを持つことで、児童が身に付けてきた力や、学習への思いや願いなどをいかした活動が展開できます。

② 「キャッチ」すること

スタートカリキュラムに欠かせないことは、児童の様子を「キャッチ」することです。児童が身に付けてきた力を踏まえて、これからどのような力を身に付けさせていけば良いのかを考えることが、スタートカリキュラムを構想することです。

「キャッチ」することのポイントをまとめます。

ポイント その1　その行動の理由を「キャッチ」すること

「キャッチ」することは、児童理解をすることです。児童の行動から、どうしてこのような行動をとるのか、どのような気持ちでいるのだろうかということを考え、それを理解しようとすることが「キャッチ」です。

記録を取って「キャッチ」する

「何のために記録を取るのか」、「見取りたい児童の姿は何か」目的を明確にして記録をとります。記録した内容から、行動の奥にある児童の内面を推察することで児童理解が深まります。また、同じ視点で記録を継続することで、児童の変容を見ることもできます。

ポイント その2　しぐさ、表情、言葉を「キャッチ」すること

児童の行動だけでなく、何気ないしぐさや表情、つぶやきなどにも注意することで、「キャッチ」できることもあります。

個のニーズを「キャッチ」する

「首をかしげる」、「上目づかいになっている」、「手で頭を掻く」といったしぐさや表情から児童の困り感を捉えることで、個に応じた適切な支援をすることができます。

好奇心や探究心を「キャッチ」する

「あっ、分かった」、「あれ、おかしいな」、「これ面白い」などのつぶやきに現れる児童の好奇心や探究心をきっかけに、学習を深めることができます。

ポイント その3	児童の思いや願いを「キャッチ」すること

主体的に学習に取り組むようにするために大切なことは、学習への思いや願いをいかすことです。そのためには、児童の思いや願いを「キャッチ」しておく必要があります。

学習履歴から「キャッチ」する

学習の様子を継続的に見取ることで、児童一人ひとりの興味・関心や思考の仕方などの傾向が見えてきます。それらを、各教科の目標や内容と関連付けることで、児童の思いや願いに寄り添った学習活動の構想につながります。

休み時間の様子から「キャッチ」する

外遊びを好む児童、教室で絵を描いたり折り紙遊びを楽しんだりする児童、休み時間の過ごし方は様々です。児童の好みや得意なことをキャッチすることで、教材と出会った時の児童の反応を予測することができます。

ポイント その4	児童が学んできたことを「キャッチ」すること

児童のこれまでの学びを理解することが大切です。一人ひとりの育ってきた環境は異なりますが、ここで大切なのは、経験の違いをすり合わせることではなく、学んできたことをいかすことです。

引継ぎ資料をから「キャッチ」する

「要録」をはじめとする引継ぎ資料を参考に、児童が幼児期に育ってきた過程や発達の姿を捉えます。幼児教育で身に付けたことを理解することはとても大切です。

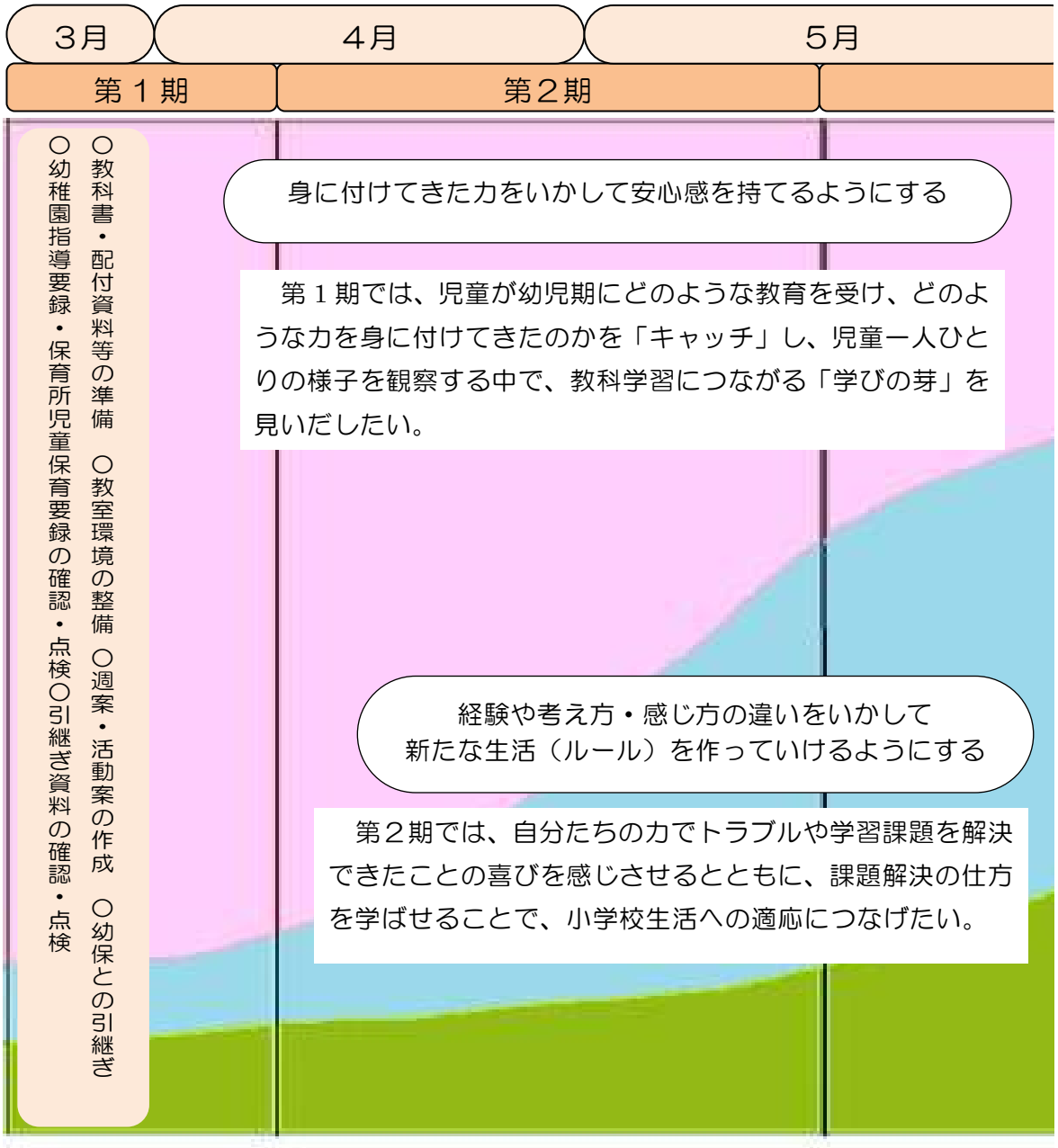
学びの芽を「キャッチ」する

夢中になって活動しているとき、児童は、無意識にさまざまなことに気付きます。それは、「もっと知りたい、学びたい」という学びの芽です。一人ひとりの気付きを丁寧に見取ることで、学びにつなぐことができます。

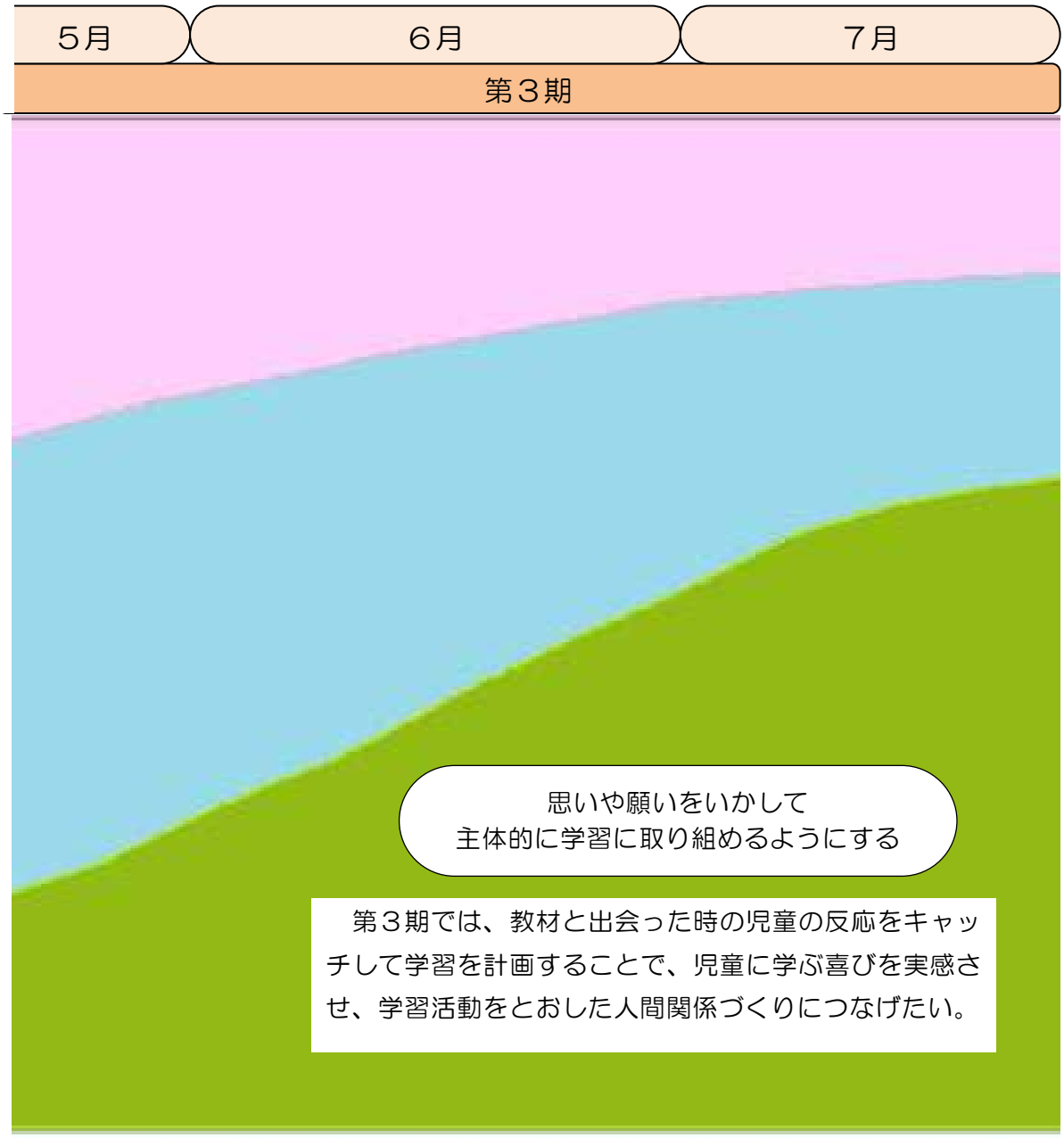
③ 入学期全体のとらえ方

本冊子では、第１図のとおり、約４カ月にわたる入学期を、三つの期間に分けています。そして、各期間において、教師が主に意識したいねらいを設定しています。これにより、見通しを持って適応に向けた取組をすることができます。

第１図　入学期全体のイメージ



ここに示した三つの期間とねらいは、はっきりと区別できるものではありません。例えば、児童は、「小学校へ行ったら勉強するんだ」という期待感で、第１期から学習への興味・関心や意欲を持っていることでしょう。反対に、第３期に入っても、不安を抱きながら学校生活を送る児童がいることも予想できます。三つのねらいを常に意識しながらも、各期間で教師が主に意識するねらいを明確にし、適切な指導をすることが大切です。



第２章

スタートカリキュラム

作成上のポイント

児童が「明日も学校に来たいな」と思えるような教育活動を行うために、どのような工夫すればよいでしょうか。

第２章では、スタートカリキュラムの考え方や具体的な方法について説明します。

① 作成に当たって大切にしたいこと

スタートカリキュラムでは、「入学前の児童の育ちをいかして、小学校教育につなげる」考え方を基本にしています。「１年生はゼロからのスタートである」とか、「教えないと児童は育たない」という考え方ではありません。

ここでは、作成に当たって大切にしたい三つの考え方を紹介します。

大切にしたい考え方 その1	幼児期の教育の考え方を取り入れる

新入学児童は、小学校に入学したとはいっても、まだ幼児の発達の段階にあります。そのような児童を、短期間で小学校教育のスタイルに引き込むことは、不適応を起こす原因となることが予想されます。

そこで、入学当初は、幼児期の教育の考え方を取り入れたものにします。

児童の発達の段階を踏まえる

一般的に幼児期は、幼児の興味や欲求に基づいた直接的・具体的な体験を通して、様々な能力や態度を身に付けていく時期と言われています。

自分の生活を離れて知識や技能を一方向的に教えられて身に付けていく時期ではありません。

生活科を中心とした学習を展開する

入学当初には、生活科を中心とした合科的な指導の中に、児童が幼児期に経験してきている楽しさを伴う活動を多く取り入れた学習を展開し、その中で、学習規律や施設の使い方等を身に付けさせることが大切です。

大切にしたい考え方 その2	幼児期の教育を理解する

児童が幼児期に身に付けてきた力を発揮できる環境を意図的・計画的に構成するためには、幼児期の教育を理解することが必要です。

環境の構成を工夫する

幼児期の教育は、「環境を通して行うこと」を基本としています。教師は、幼児の活動や生活が豊かなものとなるように環境を構成し、その環境に幼児が主体的に関わる中で、様々な力を身に付けられるようにしています。

児童が身に付けてきた力をいかす

児童は、小学校教育の基盤となる様々な力を幼児期の教育で身に付けてきています。これまでの児童の育ちを理解し、児童が身に付けてきた力をいかして教育活動を計画します。

大切にしたい考え方 その3　長期的な視野に立ち、見通しを持つ

児童の発達には個人差があり、短期間の画一的な指導によって適応が図られるものではありません。教師は、児童一人ひとりを大切にして柔軟に対応することが重要です。また、教師が長期的な見通しを持つことで、時間的・精神的なゆとりの中で児童と接することができ、望ましい人間関係を築くことにつながります。

スモールステップを意識する

夏季休業前までに、おおむね適応を図るという長期的なめあての実現に向けて、各月・週の短期的なめあてを設定します。

一人ひとりに十分な活動時間を保障

児童は、全員が同じペースで活動するわけではありません。入学当初は、じっくりと取り組みたい児童に合わせて時間設定をします。

学習の系統性を把握する

児童が身に付けてきた力や入学後に身に付けた力を、適切な時期に、教科等の中で発揮させ、児童の主体的な学びや学習意欲の向上につなげます。

幼児期の教育から小学校教育へ徐々に移行しながら、小学校生活への適応を図っていくことが、スタートカリキュラムです。

② 環境の構成を工夫すること

幼児期の教育は「環境を通して行うこと」を基本としていることから、入学期において児童が主体的な学習を展開するためには、環境の構成を工夫することが必要になります。

ここでは、そのための三つの工夫について紹介します。

環境づくりの工夫 その1　学習のねらいを明確にする

学習活動は、児童が主体的に行えることが必要です。そのためには、学習のねらいを明確にしておかなくてはなりません。その上で、意図的に環境を作り、ねらいの実現をめざします。

学習のねらい（例）	環境の構成（例）
【国語】 線をなぞる活動を通して、鉛筆の使い方に慣れる	・スモールステップで課題に取り組めるように、一枚のプリントに、2・3種類の線を示したものを用意する。 ・書画カメラを活用し、課題の線やなぞり方を視覚的に示す。 ・机間指導をしながら、活動の様子を見取り、適宜評価と指導を行う。
【図画工作】 身の回りの物を並べたり、つないだり、積んだりする活動を楽しむ	・児童が使いたくなるような材料（箱・木片・キャップ・トイレットペーパーの芯など）を収集し、児童が使いやすいように保管しておく。 ・積み木や瓶のふたなど、小さい材料も集めておく。 ・教室や廊下、ホール、砂場など、活動に合った空間を使えるように場の設定をする。

環境づくりの工夫 その2　児童の興味・関心に寄り添う

児童にとって興味・関心のある課題であり、関わりたくなるような環境があれば、児童は主体的に学習に取り組むようになります。児童の興味・関心を把握して、教科の目標や内容に関連させることが、学習活動の充実につながります。

児童の興味・関心（例）	環境の構成（例）
クイズ形式の活動に興味を示す	・教材を提示するときに、箱や袋に入れて提示し、中に入っているものを予想させる。 ・解答を考えさせるとき、ヒントとなる情報を様々な観点から示し、考えさせる。 ・教師は、必要最小限の事を話し、児童の発言をうなずきながら聞くことを心掛ける。
動物や乗り物、食べ物など生活に関連のある具体物や絵に対する関心が高い	・教材や教具に、児童が好む具体物や絵を活用する。 ・児童が実際に触ったり操作したりできる大きさのものを用意する。 ・繰り返し関わることができるように、活動時間を十分確保する。

環境づくりの工夫 その3　身に付けてきた力を発揮させる

児童が、幼児期の教育において見に付けてきた様々な力を小学校の教育活動で発揮できることは、「自分にも小学校でできることがある」という安心感や自信を持たせることにつながります。

身に付けてきた力（例）	環境の構成（例）
友達同士でトラブルが起きた時に、自分たちで解決できる	・教師は、児童の話をじっくりと聞き、それぞれの思いを理解した上で、どうしたら解決できるかと投げかけ、児童に解決策を考えさせる。 ・児童の様子を見守りながら、必要に応じて解決案を提案する。
体操服への着替えができる	・着替えを学習活動に位置づけ、ゆとりを持った着替えの時間を設定する。 ・机を４～５脚合わせたグループスタイルにして、大きなテーブルの形にする。

環境の構成の工夫は、ここに示した以外にも、様々なことが考えられます。児童の実態に合わせて、意図的・計画的に環境の構成を工夫することが大切です。

③ 実践上の配慮事項

スタートカリキュラムは、１年担任が中心となって作成し、取り組んでいきます。その取組をさらに充実させるためには、校内体制づくり、幼稚園・保育所との連携、取組の継続などに配慮することが必要です。

ここでは、それぞれのポイントをまとめます。

配慮事項 その1	校内体制づくりに関すること

１年担任が児童との信頼関係を築くために、できるだけ多くの時間、児童と一緒に過ごすことができる環境を作りたいものです。そのためには、１年生担任の教育活動をサポートするための学校全体の協力体制を整える必要があります。

＜体制づくりの例＞

- ▶ 朝の打合せに出席せずに各教室や昇降口等で児童の様子を見守り、必要に応じて支援や指導を行う。緊急の内容を除き、打合せ内容は中休みに出席者から報告を受けるようにする。
- ▶ 担任が各種提出物の対応をしている間、児童への対応ができなくなるのを避けるため、入学初期の各種提出物の対応に補助を付ける。

配慮事項 その2	幼稚園・保育所との連携に関すること

相互参観や交流授業、情報交換会をとおして、互いの教育の様子を知ることは連携の第一歩です。各地域で行われている取組をいかして連携を図っていくと良いでしょう。そして、連携を続けていくことが大切です。

＜連携に関するヒント＞

- ▶ 参観や交流活動、情報交換会の目的を明確にする。
  目的を明確にして共有することで、その実現に向けて主体的な取組を行うことができる。
- ▶ 幼保小の交流活動の際に見取った幼児の様子について、幼児教育の視点で、幼保小の教員で意見交換をする。
- ▶ 幼保小で共通理解した目的の実現に向けて実践する。

配慮事項 その3	取組の継続に関すること

取組を継続させるために有効な手立ての一つとして、記録を取り、それを蓄積していくことが挙げられます。

ここで気を付けたいことは、記録を取ること自体が目的とならないようにすることです。記録を取ることを通して、児童の適応の状況を判断し、日々の教育活動にいかしていくことが大切です。また、次年度の取組の充実に活用することを想定して、どのような視点で記録を取ることが有効であるかを考えることも大切です。

＜記録の材料と方法＞

- ▶ 入学期の週案を保存する。実践に当たって修正があった場合は、加筆したものを保存することで、次年度の取組に反映させることができる。
- ▶ 座席表や記録用のノートを活用し、児童の具体的な姿や様子を記述する。表面的な言動だけでなく、児童の心の動きを見取って記録する。
- ▶ 交流授業や情報交換会等の実施内容だけでなく、反省やその後の教育活動に生かした具体例を記録する。

コラム

幼小の学びがつながる瞬間・・・

小学校に入学して数日しかたっていない１年生の国語の授業を参観したときのことです。

「ひらがなで名前をノートに１０回書きましょう」という学習内容でした。

ある一人の児童に目がとまりました。その児童は何回か書いたところで、ふと隣の子のノートに目を向け「あー」と驚きの声をあげました。そして次に通路を隔てた児童のノートにも目を向け、また驚きの声をあげました。「４文字だ!!」

つまり、ひらがなで名前を書いているうちに、名前の文字数に関心を向け始めたのです。

なぜ、文字数に目を向けたのでしょうか。それは、１年生の使っているノートが「ます」のあるノートだからです。一ますに一文字ずつ入れて書くことで数がわかる、それは幼稚園（保育所）での遊びや生活の中で、自分にとって大切な物を１対１で対応させ「数を感じた」経験があったからでしょう。

それだけではありません。入学後数日、同じ学級に居ながらも「知らない子」だった児童が、ひらがなや数に目を向ける中で、「〇〇さん」と名前のわかる身近な存在になり、共に学習する友達のいるうれしさへと変わっていったのです。

小学生とはいえ、まだ数日しかたっていない児童、幼児期の学びの様相が授業に表れています。幼児は面白いことに夢中になると、それに関連した様々な事柄に好奇心や探究心をもち、友達とかかわり様々な感情を味わうことで学ぶ楽しさを実感します。こうした幼児期の特性を生かして幼稚園（保育所）では遊びを通した総合的な指導を行っています。この幼児期の姿が小学校でも新たな気付きを生み出し、「わくわくする」学びの楽しさへとつながっていることを目の当たりにした１年生の姿でした。

この姿から、これから始まる６年間の小学校生活だけでなく生涯にわたって学んでいく「学びの基礎力を培う時期」に、どのような学びが大事か、明らかなことでしょう。

子どもの心が動く
環境の構成の工夫を・・・

幼児が自発的に主体的に取り組む「遊び」は、心身の調和のとれた発達の基礎を培う重要な「学習」です。その学びの姿は目には見えません。保育者が、幼児の表情・しぐさ・言葉にならない声、かすかな変化などから読み取って、初めて分かる学びです。

そして、幼児期の教育は「環境を通して行うこと」を基本としています。教師は、幼児の好奇心や探究心が湧き出すような環境を構成し、活動を豊かに展開できるように幼児とともに環境をつくり変えていきます。幼児は、その環境に自ら興味や関心をもって取り組み、試行錯誤を経て、環境へのふさわしい関わり方を身に付けていきます。

遊具や用具、素材だけを配置して、後は幼児の動くままに任せるといった放任とは全く違います。また、その環境の教育的な価値を教師が取り出し、教師主導で幼児に押しつけたり、詰め込んだりするものでもありません。

幼児期の教育が目指しているものは、幼児が一つ一つの活動を効率よく進めるようになることではなく、幼児が自ら周囲に働き掛けて、その幼児なりに試したり確かめたりすることを繰り返し、発達に必要なことを獲得しようとする意欲や態度、豊かな心を育むことです。その繰り返しの過程に幼児なりの学びがあるのです。こうした子どもの心が動く環境があり、主体的に学ぶ姿を読み取ろうとする教師や温かな学級集団とのつながりがあることで、幼児期から児童期への学びのつながりができていくことを期待しています。

（文部科学省初等中等教育局幼児教育課教科調査官　津金美智子）

第３章

スタートカリキュラムの
具体的な活動例

第３章では、スタートカリキュラム作成の考え方を踏まえた週案の例と活動案の例を紹介しています。活動案の例は一単位時間の活動の流れに加えて、その背景となる考え方も示しています。この考え方が、幼小の接続を滑らかにする授業づくりにおいての参考となります。

① 週案・活動案の構成とポイント

はじめに、第３章で紹介する、週案と活動案の構成とそのポイントについて説明します。

週案の構成とポイント

①主に意識したいねらいを明確にするために、その期間のねらいを記述します。

第１期　　第１週　週案　　４／７（月）～４／１１（金）

第１期のねらい：身に付けてきた力をいかして安心感を持てるようにする

今週キャッチしたい児童の様子	今週のめあて
○教師の話を聞いているときの表情やしぐさ ○興味・関心を示している遊びの内容 ○一緒に遊んだり話したりしている相手	○児童が[illegible]やすい言葉を選び、ゆっくり話す

③その週に教師が意識して取り組む具体的な行動を、今週のめあてとして記述します。

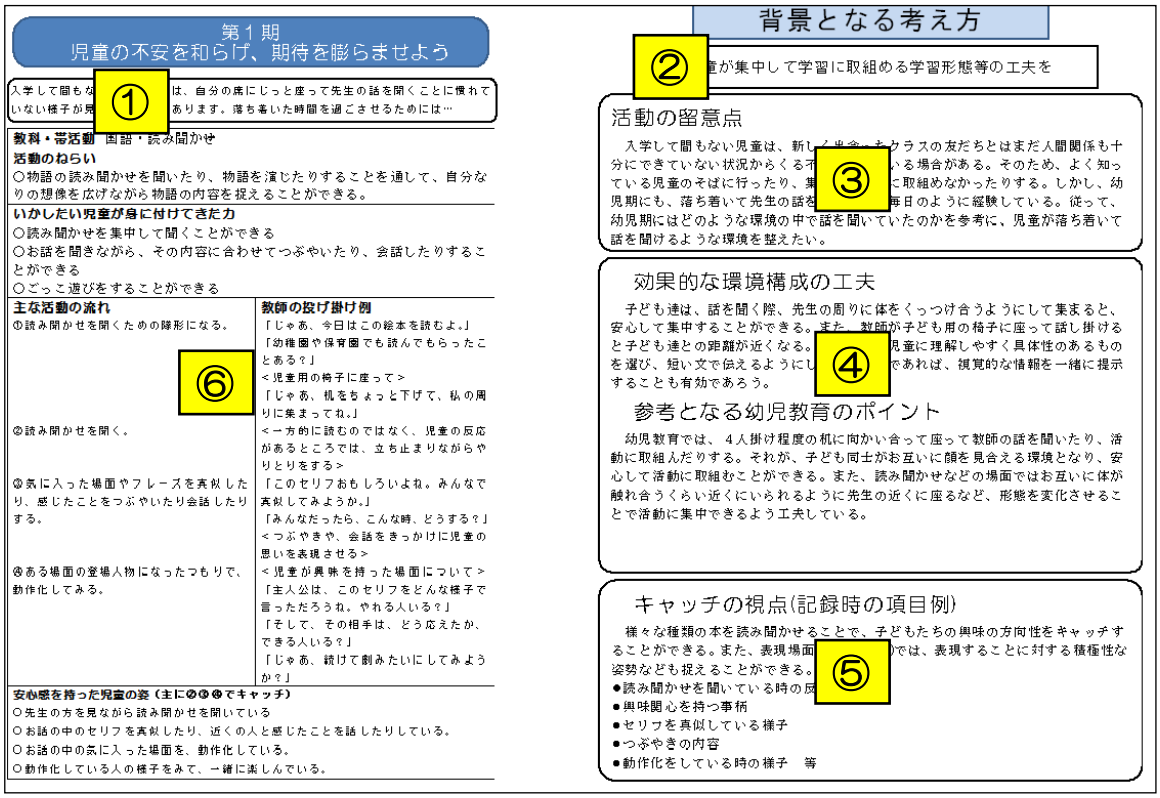
②児童の具体的な姿を捉えるために、キャッチの視点を設定します。

日	7日	8日	[illegible]	[illegible]	[illegible]
曜	月	火	水	木	金
朝		靴箱とロッカーの	トイレと水飲み場使い方	登校班編成について知らせる	身体計測の用意（着替え）
1時間目		生活 ・手遊びとかもつ列車で遊ぼう	生活 んななかよし ・運動場で一緒に遊ぼう	音楽 うたでなかよし ・手遊びとかもつ列車で遊ぼう	行事 身体計測 ・話をよく聞いて計測をしてもらおう
2時間目	行事 入学式	生活 みんななかよし ・新し友達とお話ししよう	国語 んせいといっしょ 科書の挿絵をて話そう	生活 みんななかよし ・運動場で一緒に遊ぼう	体育 ゆうぐあそび ・運動場の遊具で遊ぼう
3時間目	学活 担任紹介 教科書配付	国語 せんせいといっょに ・教科書の挿	算数 まづくり 科書の挿絵をて数を数えよ	行事 登校班編成 ・登校班の人を知ろう	国語 おはなしよんで ・読み聞かせを楽しもう
4時間目					
5時間目					
その他 行事				登校班編成	身体計測

④一単位時間の表示内容は、教科名・単元名・学習のねらいが記述されています。

⑤太枠で囲んだ時間は、具体的な活動案を紹介しています。

活動案の構成とポイント



①児童の状況・実態

児童との会話や行動観察から見えてくる状況や実態を把握し、学習課題を見いだします。

②学習活動構想の方針

課題解決に向けて取り入れたい活動を明確にします。これが学習活動を構想する方針となります。

③活動の留意点

児童が抱く困り感や活動時の反応などを予測し、留意点を整理します。

④環境の構成の工夫・幼児教育のポイント

学集活動を充実させるために、具体的な場面や指導をイメージして、環境の構成を工夫や参考とする幼児教育のポイントを整理します。

⑤キャッチの視点

活動中のキャッチの視点を明確にし、適切な評価と児童理解に生かします。

⑥一単位時間の活動の流れ

①～⑤を踏まえ、教科・単元を設定し、活動のねらいを明確にして一単位時間の学習の流れを構想します。

② 第１期の週案・活動案

第１期は、児童が安心感を持って学校生活を送ることができるようにすることが大切です。そのためには、児童が幼児期に身に付けてきた力を発揮できる学習活動を計画する必要があります。

第1期　　第1週　週案　　4／7(月)～4／11(金)

第1期のねらい:身に付けてきた力をいかして安心感を持てるようにする	
今週キャッチしたい児童の様子 ○教師の話を聞いているときの表情やしぐさ ○興味・関心を示している遊びの内容 ○一緒に遊んだり話したりしている相手	**今週のめあて** ○児童が理解しやすい言葉を選び、ゆっくり話すことを心掛ける。 ○児童の活動の様子を丁寧に観察し、一人ひとりの状況を捉える。

日	7日	8日	9日	10 日	11 日
曜	月	火	水	木	金
朝		靴箱とロッカーの使い方を確かめる	トイレと水飲み場の使い方	登校班編成について知らせる	身体計測の用意（着替え）
1時間目		音楽 うたでなかよし ・手遊びとかもつ列車で遊ぼう	生活 みんななかよし ・運動場で一緒に遊ぼう	音楽 うたでなかよし ・手遊びとかもつ列車で遊ぼう	行事 身体計測 ・話をよく聞いて計測をしてもらおう
2時間目	行事 入学式	生活 みんなな[illegible]よし ・新し[illegible]とお話し[illegible]う	国語 せんせいといっしょに ・教科書の挿絵を見て話そう	生活 みんななかよし ・運動場で一緒に遊ぼう	体育 ゆうぐあそび ・運動場の遊具で遊ぼう
3時間目	学活 担任紹介	国語 [illegible]せいといっし[illegible] [illegible]書の挿絵を[illegible]話そう	算数 なかまづくり ・教科書の挿絵を見て数を数えよう	行事 登校班編成 ・登校班の人を知ろう	国語 おはなしよんで ・読み聞かせを楽しもう
4時間目					
5時間目					
その他 行事				登校班編成	身体計測

26・27 ページに活動案掲載

28・29 ページに活動案掲載

【週案作成及び実践に当たってのポイント】
〇歌や手遊び、外遊びなどを取り入れた活動を中心に計画する。
〇児童ができそうな活動を計画し、活動している様子からできることや困っていること等を見取る。

第１期　　第２週　週案　　４／14（月）～４／18（金）

第１期のねらい：身に付けてきた力をいかして安心感を持てるようにする	
今週キャッチしたい児童の様子 〇教師に話しかけてくる内容 〇遊んでいる場所や遊びの内容 〇靴箱やロッカー等の使い方 〇学習準備や持ち物の片付け等の様子	**今週のめあて** 〇児童との信頼関係を築くために、朝の時間や休み時間に一緒に遊んだり話したりする。 〇靴箱やロッカー、トイレ等の施設を使用する様子を観察し、個々の状況に合わせた指導をする。

日	14 日	15 日	16 日	17 日	18 日
曜	月	[illegible]	水	木	金
朝					読書タイム
1時間目	生活 みんななかよし ・運動場で一緒に遊ぼう	国語 えんぴつでかいてみよう ・鉛筆で線や絵をかこう	算数 なかまづくり ・教科書を見て同じ数の仲間を見付けよう	国語 じをかこう ・自分の名前を平仮名で書いてみよう	体育 ゆうぐあそび ・順番を守って遊ぼう
2時間目	国語 えんぴつでかいてみよう ・鉛筆で線や絵をかこう	算数 なかまづくり ・教科書を見て同じ数の仲間を見付けよう	体育 ゆうぐあそび ・楽しい遊び方を考えよう	国語 じをかこう ・名前と絵を描いて自分の名刺をつくろう	国語 じをかこう ・名前と絵を描いて自分の名刺をつくろう
3時間目	学活 なかよくかえろう ・安全な下校について考える	音楽 うたでなかよし ・歌いながら体を動かしてみよう	図工 クレパスをつかって ・自分の顔を描こう	体育 ゆうぐあそび ・楽しい遊び方を考えよう	生活 みんななかよし ・名刺交換をして友達を増やそう
4時間目			学活 たのしいきゅうしょく ・給食の仕方を知ろう	算数 なかまづくり ・1 対 1 対応をして、数合わせをしよう	音楽 うたでなかよし ・歌いながら体を動かしてみよう
5時間目					
その他 行事			給食開始		

30・31 ページに活動案掲載

第１期　　児童の不安を和らげ、期待を膨らませよう

入学して日も浅く、不安で自分の机から離れられなかったり、硬い表情のまま一日過ごしていたりする児童の姿が見られます。そんな児童の不安を和らげるには…

教科・単元名	生活科・みんななかよし
活動のねらい ○運動場に出て遊具や砂場等で遊ぶことを通して、それらを利用する楽しさやよさを感じたり、友達や教師と会話をしながら楽しく安心して遊んだりすることができる。	
いかしたい児童が身に付けてきた力 ○自分が興味・関心を持ったことで遊ぶことができる ○運動場の遊具や砂場等で遊ぶことができる ○複数の友達と会話をしながら遊ぶことができる	
主な活動の流れ	**教師の投げ掛け例**
①遊具や砂場等で楽しく遊ぶというめあてを確かめる。	
②廊下を安全に通る仕方を確認する。	「幼稚園や保育園の時、廊下ではどんなことに気を付けて通っていた？」 「みんなが一度に廊下を通る時、どんなことに気を付ければいいかな？」
③上履きを履き替える仕方を確認する。	「下駄箱の使い方、分かる？」 「外履きのまま、たたきにのぼっていいかな?」
④運動場に出て遊ぶ。 ［範囲を決めるけれど、範囲内は子どもたちの思いにまかせて遊ぶようにする。］	「幼稚園にも、同じ遊具はあった？」 「何して遊んでいるの？」
⑤友達と同じ場で遊んだり、友達や教師と会話を楽しんだりする。 ※危ない遊び方・他の人に迷惑がかかりそうな遊びをしている児童への対応（緊急性がない場合）	「上手だね。」 「幼稚園では、どんな遊びをしていたの？」 「そんな遊び方をしていい？」 「その遊び方はやめた方がいいと思うよ。だってね…」
⑥うがい・手洗い、トイレを済ませて教室へ戻る。	「みんなでうまく水飲み場を使える？」 〈トイレを使った後に〉 「幼稚園や保育園のトイレと違った？うまく使えた？」
安心感を持った児童の姿（主に⑤でキャッチ） ○自分が興味・関心を持ったことで遊んでいる。 ○複数の友達と一緒に遊んでいる。 ○遊びながら、友達や教師と会話ができる。 ○思い切り体を動かしたり、笑顔で会話をしたりしている。	

背景となる考え方

児童の不安や期待をキャッチする投げ掛けを
約束事はあっさりと伝え、活動時間を十分に

活動の留意点

入学式直後の児童の不安を軽減し期待を膨らますためには、幼児期の教育で身に付けてきた力を生かすことが有効です。ここでは、遊具を使った遊びを構成したり、下駄箱等をじっくり使わせることを取り入れています。

入学直後は、小学校の約束事などを教えることに時間をかけがちですが、児童にとってその時間は、期待をしぼませる要因になる場合があるので、必要最小限に抑えるよう意識したいものです。

効果的な環境の構成の工夫

入学して間もない児童にとって、新しく出会う小学校の全てが、学習活動に効果的な環境構成と考えられます。一人ひとりの児童が、その環境にどのように出会い、関わろうとするのかを、教師は十分な活動時間を確保する中でやさしく問いかけたり見守ったりして注意深くキャッチし、児童理解へとつなげることが重要です。

例えば、自分の教室や廊下、運動場、遊具、下駄箱、トイレ、水飲み場の使い方等、使う時の約束事はあっさりと伝え、使いこなせるようになるまでの時間を十分に確保することで、「これから、１年間使う自分の下駄箱」などの愛着を持って使い続けることができるよう工夫すると良いでしょう。

参考となる幼児教育のポイント

幼児教育では、子どもにとって必要な環境の構成を工夫するとともに、その環境と十分に関われる時間を確保して活動を行わせ、教師は子ども達の思いや願いを受け止めるように問いかけたり、見守ったりしています。第１期では、児童の発達の段階に寄り添って、活動時間を確保することを最優先に考えましょう。

キャッチの視点(記録時の項目例)

不安と期待をキャッチすることを中心に、児童自身の行動の様子を先入観なしに捉え、児童理解につなげましょう。児童が表出している行動をそのまま記録し、その原因をすぐに特定することはしないよう留意することが大切です。

- 興味関心をもった事柄、一緒に遊んでいた友達
- 各施設の使い方の様子と使用後の反応、教師が一斉に話をしている時の様子
- 会話の内容　等

第１期　　児童の不安を和らげ、期待を膨らませよう

入学して間もない児童の中には、自分の席にじっと座って先生の話を聞くことに慣れていない様子が見られることがあります。落ち着いた時間を過ごさせるためには…

教科・帯活動	国語・読み聞かせ
活動のねらい 〇物語の読み聞かせを聞いたり、物語を演じたりすることを通して、自分なりの想像を広げながら物語の内容を捉えることができる。	
いかしたい児童が身に付けてきた力 〇読み聞かせを集中して聞くことができる 〇お話を聞きながら、内容に合わせてつぶやいたり、会話したりすることができる 〇ごっこ遊びをすることができる	
主な活動の流れ	**教師の投げ掛け例**
①読み聞かせを聞くための隊形になる。	「じゃあ、今日はこの絵本を読むよ。」 「幼稚園や保育園でも読んでもらったことある？」 ＜児童用の椅子に座って＞ 「じゃあ、机をちょっと下げて、先生の周りに集まってね。」
②読み聞かせを聞く。	＜一方的に読むのではなく、児童の反応があるところでは、立ち止まりながらやりとりをする＞
③気に入った場面やフレーズを真似したり、感じたことをつぶやいたり会話したりする。	「このセリフおもしろいよね。みんなで真似してみようか。」 「みんなだったら、こんな時、どうする？」 ＜つぶやきや、会話をきっかけに児童の思いを表現させる＞
④ある場面の登場人物になったつもりで、動作化してみる。	＜児童が興味を持った場面について＞ 「主人公は、このセリフをどんな様子で言っただろうね。やれる人いる？」 「そして、その相手は、どう応えたか、できる人いる？」 「じゃあ、劇みたいにしてみようか？」
安心感を持った児童の姿（主に②③④でキャッチ） 〇先生の方を見ながら読み聞かせを聞いている 〇お話の中のセリフを真似したり、近くの人と感じたことを話したりしている。 〇お話の中の気に入った場面を、動作化している。 〇動作化している人の様子をみて、一緒に楽しんでいる。	

背景となる考え方

児童が集中して学習に取組める学習形態等の工夫を

活動の留意点

入学して間もない児童は、新しく出会ったクラスの友達とはまだ人間関係も十分にできていない状況から、よく知っている児童のそばに行ったり、集中して活動に取組めなかったりすることが予想されます。しかし、幼児期にも、落ち着いて先生の話を聞く場面は毎日のように経験してきています。そこで、幼児期にはどのような環境の中で話を聞いていたのかを参考に、児童が落ち着いて話を聞けるような環境を整えることが大切です。

効果的な環境の構成の工夫

子ども達は、話を聞く際、先生の周りに体をくっつけ合うようにして集まると、安心して集中することができます。また、教師が子ども用の椅子に座って話し掛けると、子ども達との距離が近くなります。使う言葉も児童に理解しやすく具体性のあるものを選び、短い文で伝えるようしましょう。必要であれば、視覚的な情報を一緒に提示することも有効です。

参考となる幼児教育のポイント

幼児教育では、４人掛け程度の机（テーブル）に向かい合って座り、教師の話を聞いたり活動に取組んだりしています。それが、子ども同士がお互いに顔を見合える環境となり、安心して活動に取組むことができます。また、読み聞かせなどの場面では、お互いに体が触れ合うくらい近くにいられるように先生の近くに座るなど、形態を変化させることで活動に集中できるよう工夫しています。

キャッチの視点(記録時の項目例)

様々な種類の本を読み聞かせることで、子どもたちの興味・関心をキャッチすることができます。また、表現場面(ごっこ遊び)では、表現することに対する積極的な姿勢なども捉えることができます。

- 読み聞かせを聞いている時の反応の仕方
- 興味関心を持つ事柄
- セリフを真似している様子
- つぶやきの内容
- 動作化をしている時の様子　等

第１期　　児童の不安を和らげ、期待を膨らませよう

「小学校では、字を書く勉強をするんだよね」と話しかける児童は小学校で勉強できることを楽しみにしています。そんな期待を膨らませるには…

教科・単元名	国語・じをかこう

活動のねらい

○自分の名前を平仮名で書いたり、平仮名で書かれた自分や友達の名前を読んだりする活動を通して、友達の名前に興味・関心を持ち、新しい友達と関わろうとする。

○名前を書いたり読んだりする活動を通して、平仮名に興味・関心を持つとともに、文字を読んだり書いたりしようとする意欲を高める。

いかしたい児童が身に付けてきた力

○自分の名前を平仮名で書くことができる

○平仮名で書かれた自分や友達の名前を読むことができる

主な活動の流れ	教師の投げ掛け例
①ワークシートに自分の名前を書く。 ［縦に二回書く（Ａ４縦書き）］	「この間、字を書きたいって言ってた人がいたんだけど、みんな、自分の名前、書けるかな？」
②ワークシートを切って、二つの名前カードを作り、一つを教師に提出する。	
③教師が書画カメラを使って提示した名前を声に出して読み、それが誰なのかを探す。 ・教師は、児童が名前や平仮名に興味・関心を高められるように、はじめは１枚ずつ数名、次に同じ文字の児童を２、３名一緒に提示するなど、事前に提示する名前の順番を計画しておく。	「この名前、読めるかな？」 「声に出して読んでみよう。」 「どこに座ってるか、分かる？」 「今度は、二人いっぺんに出すよ。読めるかな？」 「この二人の名前を見て、何か見つかったことある？」
⑤次の活動への計画を相談する。 例：一番多く使われていた平仮名を見付け、文字の練習につなげる。 今まで話したことのない友達を見付け、名刺交換をする。	「今日は、新しい名前と友だちをたくさん見つけたね。字もたくさん読めたね。」 「今日、一番たくさん出てきた字は、どの字だろうね？」 「じゃあ、次の国語の時間に、その字をみんなで練習して、書けるようになっちゃおうか。」

安心感を持った児童の姿（主に③でキャッチ）

○提示された友達の名前を、声を出して読んでいる。

○自分の名前が提示されて、友達に読まれた時に、笑顔で挙手したり、立ったりしている。

背景となる考え方

今持っている児童の力を使ってできる発見的な学習を

活動の留意点

児童は、小学校での勉強に期待を持って入学してきます。教師は、その期待を満足させるような学習活動を展開する必要があります。そのためには、児童が今できる力を使って、主体的に取組めるような授業を構成する必要があります。児童が主体的に活動に取組むには、教師から一方的に教えられるよりも、自分で発見しながら進めていける学習の方がより有効だと言えます。

効果的な環境の構成の工夫

児童自身が平仮名で書いた名前が、この場面での主な環境となります、友だちの書いた文字を詳しく読もうとする意識を持てるようにすることが、環境の構成の工夫となります。順番に１枚ずつ提示するだけでは、児童が興味・関心を持てるような環境とはならなりません。「この名前の中に、動物がいます。なんという動物でしょう。」、「二人の名前の両方に出てくる文字は？」などのように児童がその文字から何かを発見できるような投げ掛けをするなど、主体的に文字と関われるような構成を工夫したいものです。

参考となる幼児教育のポイント

幼児教育では、子ども達の興味や関心を引き出すようなものや出来事などとの出会いを、環境の構成と捉えています。そして、児童が自らそれらに関わり、充実感や満足感を味わうことができるよう、心ゆくまで十分に取組めるような場、素材、そして時間を保証しています。

キャッチの視点(記録時の項目例)

文字を読む活動に取り組ませる中で、声に出して読むという表現活動を、安心してできているかどうかをキャッチすることができます。また、自分なりの観点を持って発見することに対する姿勢を捉えることもできます。

- 文字を読む際の声の大きさ
- 文字の読み方
- 発見の観点　等

③ 第２期の週案・活動案

第２期は、児童の経験や感じ方・考え方の違いをいかしながら、新たな生活（ルール）を作っていく期間になります。児童同士が互いの違いを受け止め合えるような対応が求められます。

第2期　　第3週　週案　　4／21(月)～4／25(金)

第2期のねらい:経験や感じ方・考え方の違いをいかして新たな生活を作っていけるようにする

今週キャッチしたい児童の様子	今週のめあて
○学習中に自分の思いや考えを表現している姿とその内容 ○友達の話を聞いている時の様子	○児童が話すことをじっくり聞くことを心掛け、一人ひとりの感じ方や考え方を捉える。 ○児童が学校生活のリズムに慣れるように、授業や休み時間の時刻を守る。

日	21 日	22 日	23 日	24 日	25 日
曜	月	火	水	木	金
朝		対面式			読書タイム
1時間目	生活 こうていたんけん ・春を見付けよう	音楽 わらべうた ・歌に合わせて楽しく遊ぼう	国語 あいうえおのうた ・集めた言葉を書いてみよう	算数 １から５までのかず ・数の書き方を知ろう	道徳 げんきにあいさつ ・いろいろな挨拶を知ろう
2時間目	学活 たいめんしきのれんしゅう ・並び方と歌を練習しよう	算数 １から５までのかず ・数の意味と読み方を知ろう	学活 たのしいきゅうしょく ・給食当番の相談をしよう	体育 マットあそび ・動物の動きをまねしてみよう	算数 １から５までのかず ・合成と分解を考えよう
3時間目	体育 マットあそび ・動物の動きをまねしてみよう	生活 こうていたんけん ・春を見付けよう	図工 はるをみつけたよ ・見付けた春を絵で描こう	生活 こうていたんけん ・見つけた春を紹介し合おう	国語 あいうえおのうた ・集めた言葉で言葉遊びをしよう
4時間目	算数 １から５までのかず ・数の意味と読み方を知ろう	国語 あいうえおのうた ・言葉集めをしよう	図工 はるをみつけたよ ・見付けた春を絵で描こう	国語 あいうえおのうた ・集めた言葉を書いてみよう	音楽 わらべうた ・歌に合わせて楽しく遊ぼう
5時間目					
その他 行事		対面式		特別日課 家庭訪問	特別日課 家庭訪問

34・35 ページに活動案掲載

36・37 ページに活動案掲載

【週案作成及び実践に当たってのポイント】
〇経験や感じ方・考え方の違いから、学習課題を見いだす。
〇児童同士のトラブルや学習課題を解決することを通して、課題解決の仕方も学ばせることを意識する。

第２期　　第６週　週案　　５／12（月）～５／16（金）

第２期のねらい：経験や感じ方・考え方の違いをいかして新たな生活を作っていけるようにする	
今週キャッチしたい児童の様子 〇学校や学級の決まりや約束を守っている様子 〇一緒に遊んだり話したりしている友達のメンバー	今週のめあて 〇学校や学級の決まりや約束を学習と関連付けて理解させるようにする。 〇学校生活における交友関係の変化を捉える。

日	12 日	13 日	14 日	15 日	16 日
曜	月	火	水	木	金
朝			係カード作り	係カード作り	読書タイム
1時間目	生活 がっこうたんけん ・学校探検の相談をしよう	学活 かかりのしごと ・学級に必要な係を相談しよう	国語 にていることば ・濁音と半濁音を含む言葉集めをしよう	国語 にていることば ・促音を含む言葉を読もう	道徳 ありがとうがいっぱい ・ありがとうを伝えよう
2時間目	国語 にていることば ・濁音と半濁音のを含む言葉を読もう	算数 なんばんめ ・順序数と集合数の違いを知ろう	体育 ボールゲーム ・転がしたり投げたりして的当てをしよう	国語 にていることば ・促音を含む言葉を集めよう	算数 いくつといくつ ・７の合成・分解を考えよう
3時間目	体育 ボールゲーム ・転がしたり投げたりして的当てをしよう	音楽 きいておどって ・曲の感じに合わせて体を動かそう	図工 ちぎったりまるめたり ・粘土の感触を楽しもう	生活 おおきくなあれ ・種まきの準備をしよう	国語 ことばあそび ・しりとりやクロスワードをして遊ぼう
4時間目	書写 かきじゅん ・書き順に気を付けて平仮名を練習しよう	生活 がっこうたんけん ・約束を守って探検にいこう	図工 ちぎったりまるめたり ・粘土の感触を楽しもう	算数 いくつといくつ ・６の合成・分解を考えよう	音楽 きいておどって ・曲の感じに合わせて体を動かそう
5時間目	算数 なんばんめ ・順序数の役割を知ろう	国語 にていることば ・濁音と半濁音を含む言葉を書こう	国語 にていることば ・濁音と半濁音のを含む言葉集めをしよう	体育 ボールゲーム ・転がしたり投げたりして的当てをしよう	国語 ことばあそび ・集めた言葉を平仮名で書いてみよう
行事 その他					

38・39 ページに活動案掲載

第２期　　児童の意欲やトラブルをいかそう

「算数は、得意なんだ！」「私、10 まで数えられるよ！」と言っていたのに算数の授業が始まると、元気がなくなる児童がいます。学習意欲を持続させるには…

教科・単元名	算数・１から５までのかず
活動のねらい ○「３」の意味と、読み方・書き方を理解する。	
いかしたい経験や考え方・感じ方の違い ○具体物を数えることができる。 ○数字を読むことができる。 ○１～１０までを唱えることができる。	
主な活動の流れ	**教師の投げ掛け例**
①教科書の絵から「３」のものを選ぶ。	＜絵の中の３のものを選んで＞ 「うさぎと同じ数のものを選んでみて？」
②具体物の「３」と半具体物を１対１対応させる。	「本当に同じ数かどうか、確かめるにはどうする？」 「違うやり方はあるかな？」
③１～１０の数字の中から「３」を選んで、読む。	「今、数えた数はどれ？」 「読めるかな？」
④「３」を書く。	「その数、自分で書けるかな？」
⑤半具体物を動かして、いろいろな「３」をつくりながら、唱えたり書いたりする。 ［半具体物を動かすことで、順序や分割に対する不変を体験的に捉えられるようにする］ ［半具体物と数字と読み方を対応させる］	「自分で、「３」をつくれるかな？」 ＜別の並び方をしている様子を指して＞ 「両方とも「３」と言っていいかな？」 「どうして、「３」って言える？」 「確かめるにはどうする？」 （１対１対応させて確かめる） ＜並び方を変えながら＞ 「これ、「３」のままになってる？」 （１対１対応させて確かめる） ＜教科書の絵に戻って、黒板に以下のように書いて、考えさせる＞ 「「３」になっているものをかこもう」 （「３」を見て確かめるため） 「囲んだら、近くに「３」って書いておこう。」（「３」を書いて確かめるため）
新しい生活（ルール）づくりに向かう児童の姿（主に②⑤でキャッチ） ○具体物や班具体物を使って、３の確かめ方を考えている。 ○友達の考えと自分の考えを比べ、様々な３の確かめ方があることに気付く。	

背景となる考え方

児童の自信をいかして、様々な考えを表現し合える活動を

活動の留意点

児童の持つ自信を生かすために、「数える」活動を導入段階で行うことは必要ですが、必要以上にその活動を続けると、児童はあきてしまうことがあります。学習意欲を持続させるためには、この学習で新たに身に付けさせたい力を明確に捉え、それを児童の実態に合わせて身に付けさせるためには、どのような活動を位置付ければよいかを構想することが必要です。

効果的な環境の構成の工夫

この学習活動における主な環境は、数です。しかし、数だけを扱うのではなく、それと１対１対応する具体物や半具体物も環境として考える必要があります。また数は、「数字」と「読み方」と、それが表わしている「量」の３者がその内容となります。これら３者の１対１対応も、この学習活動で児童に身に付けさせたい力と言えます。この力が身に付くように、環境としての数に関わることができるよう工夫しましょう。

参考となる幼児教育のポイント

幼児教育では、遊びが学びの場となります。遊びの場面で子どもたちは、「こうやった方がいいよ」といった、それぞれの考えを出し合います。教師は、それを見守りながら適切に支援をしています。上記の３者の１対１対応も、「数字」と「読み方」と「量」を対応させる、カルタや神経衰弱のような遊び（ゲーム）の中で学ばせることが効果的と言えるでしょう。

キャッチの視点(記録時の項目例)

児童が具体物や半具体物を繰り返し操作している姿を見取ることで、数字と読み方と量の３者を結び付けて理解することができているかどうかを捉えることが大切です。

- 具体物や班具体物を操作して、３を作っている様子
- 「いち、に、さん」と声に出して確かめている姿
- 友達の確かめ方を聞いて、自分で試している姿

第２期　　児童の意欲やトラブルをいかそう

給食が始まると「給食の支度を手伝いたいよ！」「〇〇ちゃんが牛乳配りをやらせてくれない！」こんな声が聞こえてきます。給食当番をスムースに行うには…

教科・題材名	学級活動・給食当番のやり方を決めよう
活動のねらい 〇入学前までの給食の経験の有無や違いを確かめるとともに、新たに経験した給食を振り返り、自分たちで給食の配膳や片付けができ、楽しく給食を食べるための方法について考える。	
いかしたい経験や考え方・感じ方の違い 〇６年生と一緒に配膳や片づけをした経験 〇配膳や片づけで自分がやってみたいこと 〇配膳や片付けで、自分たちができそうなことと不安なこと	
主な活動の流れ	**教師の投げ掛け例**
①給食開始から数日間の給食の様子を振り返る。	「給食の準備は、うまくできた？」 「幼稚園の給食と、小学校の給食と違うところはありますか？」 「どんな仕事があったかな？」 「幼稚園や保育園の時と同じように食べることができた？」
②配膳や片付けで不安なことや心配なことについて話し合い、友達がどのような気持ちを持っているか受け止め合う。	「配膳をしている時に、困ったことはありますか?」 →仕事の分担方法につなげる 「〇〇さんは、こんな気持ちだったんだね。（共感的に）」
③経験したことを基に、配膳や片付けの中で、自分たちの力でできそうなことを考える。	「自分たちで出来る仕事はあるかな？」 →教師や上級生と、自分たちで行う仕事の分担を明確にする。 〈②で出された不安や心配事をきっかけとして〉
④楽しく給食を食べるための方法を考える。	「こんな不安をなくすためには、どうしたらいいかな？」
新しい生活（ルール）づくりに向かう児童の姿（主に②③④でキャッチ） 〇幼稚園や保育所での経験を話したり、友達の話を聞いたりしている。 〇こぼれないものや軽いものは一人で運ぶことができることに気付く。 〇熱いものや汁物をよそるときは手伝ってもらう必要があることに気付く。 〇順番を守って配膳したり片付けしたりするなどのルールを考えている。 〇マナーを守って食べるとお互いに気持ち良く食べることができることに気付く。	

背景となる考え方

児童同士が思いの違いを受け止め合える活動を

活動の留意点

幼稚園や保育園の時に給食を経験している児童は、給食当番活動の経験もしてきていますが、園によってそのやり方は異なります。また、お弁当を昼食にしていた児童は、配膳の経験をしてきていません。幼児期の経験をいかして、自由に取り組ませるとちょっとしたトラブルが起きると予測できます。まずは児童同士が、このような違いを受け止め合える活動を意識したいものです。

効果的な環境の構成の工夫

給食の配膳を効果的な環境構成として位置付けるには、トラブルが起きないように教師がやり方を示すのではなく、児童自身の力で解決できる程度のトラブルを経験させることが有効だと言えます。そして、そのトラブルにおけるお互いの思いの違いを児童が受け止め合えるように、話し合い活動などを行い、そこから、自分たちの持つ課題が見出されるようにすると良いでしょう。

参考となる幼児教育のポイント

幼児期の教育においては、活動中に起こる問題の解決方法を教師が主導するのではなく、「どうしようか」と子どもたちに問いかけ、自分たちで解決策を見付けださせるようにしています。小学校でも、そのような考え方で児童自身が新しい生活（ルール）をつくっていけるように配慮すると良いでしょう。

キャッチの視点(記録時の項目例)

児童が、給食の配膳や片付けにおける自分の思いや考えを表現することができているかをキャッチすることを中心に、他の児童の思いや考えを受け止めることができているかどうかを捉えます。

- 配膳・片付け・食事中の様子についての思いや考え
  （幼稚園や保育園の経験、うまくいったこと、うまくいかなかったこと等）
- 友だちとの関係についての思いや考え
  （自分がやりたいと思ったのにできなかったこと、協力した仕事等）
- 友だちの話を聞いている時の様子　等

第２期　　児童の意欲やトラブルをいかそう

入学して１か月が過ぎると、学校内でも行動範囲が広がり「６年生の教室に行ってきてもいい？」などと尋ねてくる児童も出てきます。このような気持ちを学習に向かわせるには…

教科・題材名	生活科・がっこうたんけんにいこう
活動のねらい 〇学校内を探検し、校舎内にいる人々に出会い、出会った人にあいさつをしたり、話を聞いたりするための計画を立てる。	
いかしたい経験や考え方・感じ方の違い 〇校舎内で探検したい場所 〇小学校で出会いたい人 〇あいさつの仕方や話し方 〇探検する際の約束	
主な活動の流れ	**教師の投げ掛け例**
①探検したい場所を出し合う。 ［校舎内の施設を示した図を提示できるように準備しておく。］	「〇〇さんが、『６年生の教室に行ってもいい？』って言ってたんだけど、他にも行ってみたい場所がある人いる？」 「学校の中に、どんな部屋があるか分かる？」
②小学校の中でお話したい人を出し合う。 ［学校の職員写真を準備しておく。］	「６年生以外に、お話してみたい人いる？」「学校の中に、どんな人がいるか分かる？」
③探検の仕方やその時に気を付けることを話し合う。	「人によって、行ってみたい場所も、お話したい人もいろいろ違うみたいなんだけど、どうしたらいいかな?」 「学校の中の人は、みんな勉強してるんだけど、気を付けなくちゃいけないことってあるかな?」
④探検するときの約束をきめる。	「気を付けなくちゃいけないことが、いくつかあったけど、みんなで約束しておいた方がいいことってあるかな？」
新しい生活（ルール）づくりに向かう児童の姿（主に②③④でキャッチ） 〇幼稚園や保育所での経験と比べて、自分が行きたい場所や会いたい人について話している。 〇行きたい理由や会いたい理由を話したり聞いたりしている。 〇探検するときに気を付けたいことを考えている。	

背景となる考え方

お互いに受け止め合った思いをいかして、
自分たちで解決方法を見付ける活動を

活動の留意点

学校探検は、教師にとっては生活科の活動として当たり前のように行われています。しかし、児童にとっては新しい活動です。従って、児童が「小学校の中を探検したい」という意欲をもてるような工夫が必要となります。また、児童一人ひとりによって見たいものが異なることも考えられます。その違いを学習の起点として、自分達の力で解決していけるような活動を工夫する必要があります。

効果的な環境の構成の工夫

学校探検における環境は、学校の各施設及びそこで活動している人たちになります。児童は、学校に慣れてくると徐々に活動範囲を広げ、それぞれに自分の選んだ場所に行ってそこにいる人たちと関わるようになります。その違いを学習活動の中で受け止め合い、必然的に探検の計画につながるよう工夫すると良いでしょう。

参考となる幼児教育のポイント

幼時教育でのグループ活動は、メンバーを決めてから活動に入るのではなく、共通の活動をしている構成メンバーが、一つのグループとなります。学校探検でも、行きたい場所や、話したい人が共通している児童でグルーピングを行い、そのメンバーで探検の計画を立てていくと、最初の思いを共有させながら活動に取り組ませることができます。

キャッチの視点(記録時の項目例)

児童１人ひとりが行きたい場所や会いたい人の違いを捉えるとともに、自分と友達との願いの違いを受け止め、一人ひとりの願いを実現するために気を付けたいことや約束を考え、表現している姿を捉えるようにしましょう。

- 行きたい場所・会いたい人とその理由
- 学校探検で気を付けたいこと・約束
- 友達の話を聞いているときの様子　等

④ 第３期の週案・活動案

第３期は、児童に各教科等の楽しさを味わわせながら、主体的に学習に取り組めるようにすることが求められます。そのためには、児童の思いや願いをいかした学習活動を計画する必要があります。

第3期　　第9週　週案　　6／2（月）～6／6（金）

第3期のねらい：思いや願いをいかして主体的に学習に取り組めるようにする

今週キャッチしたい児童の様子	今週のめあて
○学習準備や片付けをしている様子 ○主体的に取り組もうとしている活動の内容 ○生活場面を思い出しているときの様子とその内容	○児童が、時間割を見て学習の準備ができるように、朝の時間に一日の見通しを持たせる。 ○学習内容と生活経験と関連付けたり、操作活動を取り入れたりした学習を展開する。

日	2日	3日	4日	5日	6日
曜	月	火	水	木	金
朝		交通安全教室について			読書タイム
1時間目	生活 つうがくろのあるきかた ・通学路のひみつをさがそう	行事 交通安全教室 ・安全な歩き方を知ろう	国語 ぶんをつく ・主語と のある文 うろう	国語 おはなしをよもう ・挿絵を見て、お話の順序を考えよう	道徳 わたしのまち ・まちのすてきなところを紹介しよう
2時間目	国語 ぶんをつくろう	算数 たし算 わせる計算の方を考えよう	体育 ルゲーム 転がしたり投げたりして的当てをしよう	国語 おはなしをよもう ・場面の様子を想像しながら音読しよう	算数 たし算 ・増える計算の仕方を考えよう
3時間目	ボー ーム ・転 たり投げた て的当てを う	音楽 リズムにのって ・歌に合わせてリズム打ちをしよう	図工 つなげてあそぼう ・材料を積んだり並べたりして遊ぼう	生活 つううがくろのあるきかた ・通学路のひみつをさがそう	国語 おはなしをよもう ・場面の様子を想像しながら音読しよう
4時間目	学活 はを いせつに ・む 歯の予防につ いて知ろう	生活 つううがくろのあるきかた ・通学路のひみつをさがそう	図工 つなげてあそぼう ・材料を積んだり並べたりして遊ぼう	算数 たし算 ・合わせる計算の仕方を考えよう	音楽 リズムにのって ・歌に合わせてリズム打ちをしよう
5時間目	算数 たし算 ・合わせる計算と増える計算を知ろう	国語 ぶんをつくろう ・主語と述語のある文をつうろう	国語 おはなしをよもう ・全文を読んでお話の大体をつかもう	体育 ボールゲーム ・転がしたり投げたりして的当てをしよう	国語 おはなしをよもう ・音読発表会をしよう
行事その他		交通安全教室			

44・45 ページに活動案掲載

42・43 ページに活動案掲載

【週案作成及び実践に当たってのポイント】
○児童が学ぶ必然性を感じるように、学習内容と生活経験を関連付けた計画を立てる
○第１期、第２期で捉えた児童の学びの芽をいかした活動を計画したり、小学校で身に付けた力を発揮できるような活動を行ったりする。

第3期　　第 12 週　週案　　6／23(月)～6／27(金)

第3期のねらい:思いや願いをいかして主体的に学習に取り組めるようにする	
今週キャッチしたい児童の様子 ○児童が楽しみにしている活動の内容 ○遠足の時の活動の様子 ○児童の健康状態	**今週のめあて** ○絵や写真、具体物を使って、児童の思いや願いを引き出す。 ○遠足や体育の水遊びが予定されているので、児童の健康管理に配慮する。

日	23 日	24 日	25 日	26 日	27 日
曜	月		水	木	金
朝	アサガオの水やり		オの水やり	体育の準備 （着替え）	アサガオの水やり
1時間目	生活 おおきくなあれ ・アサガオの様子を観察しよう	行事	国語 みんなにつたえよう ・遠足の思い出を話そう	体育 みずあそび ・歩いたり潜ったりして水遊びを楽しもう	道徳 がんばってるね ・毎日続けていることを話し合おう
2時間目	国語 にていることば ・拗音をを含む言葉の表し方を知ろう		生活 おおきくなあれ ・アサガオの様子を観察しよう	体育 みずあそび ・歩いたり潜ったりして水遊びを楽しもう	算数 ひき算 ・ひき算の問題づくりをしよう
3時間目	学活 えんそくのはなし ・めあてや約束、持ち物を確かめよう		図工 ちょっきんぱ ・折ったり切ったりして飾りをつくろう	国語 みんなにつたえよう ・遠足の思い出を話そう	国語 みんなにつたえよう ・遠足の思い出を文に書こう
4時間目	算数 ひき算 ・違いを求める計算の仕方を考えよう		図工 ちょっきんぱ ・折ったり切ったりして飾りをつくろう	算数 ひき算 ・違いを求める計算の仕方を考えよう	音楽 うたとがっきをあわせよう ・鍵盤ハーモニカを演奏しよう
5時間目	国語 にていることば ・拗音をを含む言葉を集めて書いてみよう		書写 じのかたちにきをつけて ・平仮名の練習をしよう	生活 おおきくなあれ ・アサガオの様子を観察しよう	国語 みんなにつたえよう ・遠足の思い出を文に書こう
行事その他		遠足			

46・47 ページに活動案掲載

遠足

第３期　「新しい・・・」を経験させよう

「僕、５+４わかるよ！」などのように、たし算の計算ができる児童がいます。そのような児童にとっても「新しい」発見のある授業をするには…

教科・単元名	算数・たし算
活動のねらい ○たし算には、「合併」と「増加」があることを体験的に知ることができる。	
いかしたい思いや願い ○たし算は得意だ。 ○たし算をもっと上手にできるようになりたい。 ○たし算をできるようになりたい。	
主な活動の流れ	**教師の投げ掛け例**
①［合併］がたし算で計算できることを知る。	＜右手に具体物を３個、左手に同じものを４個持ち、両方を一つの箱に入れて＞ 「箱の中には、○○がいくつある？」 「どうしてそうなるか説明できる？」 （合併を「あわせて」などの児童の言葉で確認する） 「『あわせる』計算をたし算っていうんだね。」
②［増加］がたし算で計算できることを知る。	＜机の上に５個の具体物を置き、ハンカチなどでそれを隠し、後からそこに３個の具体物を増やして＞ 「ハンカチの下には、○○がいくつある？」 「どうしてそうなるか説明できる？」 （増加を「ふやして」などの児童の言葉で確認する） 「『ふやす』計算もたし算なんだね。」
③場面ごとに、［合併］か［増加］か、考える。	＜［合併］や［増加］を実演して＞ 「これは、どっちのたし算？」 「どうして、そうわかる？」 「いくつになった？」
主体的に学習に取組む児童の姿（主に③④⑤でキャッチ） ○たし算の場面を話しながら操作活動をしている。 ○「合わせると」や「増えると」といった言葉を使い分けている。 ○自分の生活経験の中から、たし算の場面を考えようとしている。	

背景となる考え方

教科の系統性を踏まえ、
ここで身に付けさせる「新しい力」を明確にした学習活動を

活動の留意点

たし算ができるということは、「たし算の意味を理解している」、「たし算の仕方を考えられる」、「たし算に習熟し活用することができる」の三つの活動を満たしている状態のことを言います。ここでは特に、たし算を使っている生活場面と結び付ける活動や、算数的活動を通して、たし算の意味を理解させることが重要です。

効果的な環境の構成の工夫

この時期の児童は、おはじきやブロックなどを操作することを好む傾向があります。このような児童の発達の段階を踏まえると、この学習で活用したい環境は、文房具や食べ物などの具体物、おはじきやブロックなどの半具体物が考えられます。例えば、たし算の場面絵を提示し、その様子を実際に具体物や半具体物を操作する活動を設定することが、環境構成の工夫となります。

児童の学びの芽を生かすポイント

児童は、生活の中で様々なたし算の場面を経験しています。しかし、児童はそれらをたし算の場面と理解しているわけではありません。そこで、学習を通して合併や増加について理解した後で、「同じようなことってあるかな」と投げかけ、児童の経験を引き出し、たし算の具体的な場面をイメージさせると良いでしょう。

キャッチの視点(記録時の項目例)

児童一人ひとりがたし算の意味を理解しているかどうかを判断するためには、具体物や半具体物の操作活動の様子を見取ることが有効です。自分の考えで操作活動ができない児童がいる場合は、その原因を、児童との会話を通して捉えることを意識するようしましょう。

- 具体物や半具体物の操作活動中のつぶやきや手の動き
- 生活場面を思い出している様子や話す内容

第３期　「新しい・・・」を経験させよう

小学校生活に慣れてくると「先生、これ幼稚園でやったことあるよ！」「もう知ってるよ！」こんな声も出始めます。そんな児童の自信と期待に応えるには…

教科・題材名	音楽・うたとがっきをあわせよう

活動のねらい

〇楽曲の気分を感じ取ったり、リズムをとったりしながら、範奏を聞くことができる。
〇楽曲の流れに合わせて速度や強弱に気を付けながら、体やカスタネットを使って簡単なリズム打ちをすることができる。

いかしたい思いや願い

〇範奏から感じ取った気分やリズムを表現したい
〇歌に合わせてリズム打ちをしたい
〇友達と一緒に演奏したい

主な活動の流れ	教師の投げ掛け例
①範奏（楽曲）を聴きながら、その気分を感じ取ったり、リズムをとったりする。	「この曲、知ってるかな？」 「聞いている時、どんな気分になったか言える？」 「どうして、体をゆすったのかな？」
②感じ取った気分を表現に生かしながら歌を歌う。	「〇〇さんが言ってくれたように『楽しい』気分が伝わるように歌ってみようか。」 「××さんは、弾むように手を叩きながら歌っていたね。みんなでやってみようか。」
③簡単なリズム譜を見ながら歌に合わせて、手でリズム打ちをする。	「みんなで、同じリズムで打ってみたら楽しいんじゃないかな？」 「どうやったら合せられるかな？」 →リズム譜を見ることにつなげる。
④カスタネットでリズム打ちをする。	「●●さんが、カスタネット使いたいみたいだね。今度はそうしてみる？」 「本当に、蜂がとんでいるみたいな気分になってきたね。」 「弾むような気分を伝えるには、どんな打ち方をすればいいかな？」
⑤友達とリズム打ちを聴き合ったり、一緒に演奏したりして、演奏の楽しさを味わう。	「△△さんは、みんなと違う打ち方をしているよ。みんなで聞いてみようか。」 「みんなで、△△さんの打ち方で出来るかな？やってみよう。」 「この打ち方だと、ふわふわするような気分になるね。」

主体的に学習に取組む児童の姿（主に③④⑤でキャッチ）

〇範奏を聴きながら手や体を動かしている。
〇歌を歌いながら、リズム打ちを楽しんでいる。
〇感じ取った気分を表現に生かして自分なりにリズム打ちをしている。
〇リズム譜を見て、同じリズムで演奏しようとしている。
〇感じ取った気分を表現に生かしながら、友達とリズムを合わせて演奏している。

背景となる考え方

幼児教育と小学校教育の内容の違いを具体的に捉えた学習活動を

活動の留意点

児童にやりがいのある「新しい」学習を経験させるためには、幼児期の学習経験を捉えておく必要があります。例えば、音楽では、音や音楽で十分遊び、表現する楽しさを味わう経験はしていますが、自分の感じ取った気分を伝えたり、より上手な演奏しようとしたりすることを意識した表現活動はしていないと考えられます。こうした違いを踏まえて、児童にとってのやりがいのある「新しい」学習を構成することが大切です。

効果的な環境の構成の工夫

第３期では、教材そのものが主な環境となります。この場合、全員で演奏する楽曲や、リズム打ちをするために使う手やカスタネットがそれにあたります。これらを効果的に位置付けるには、幼児期とは違う関わり方ができるような工夫が必要です。範奏を聞いている時に体をゆすったり、リズムをとったり、小さな声で歌うなど、これまでの経験から表出する姿を肯定的に捉え、「どんな気分だった？」などの言葉掛け等で「新しい」学習活動に結び付けるようにしましょう。

児童の学びの芽を生かすポイント

斉奏のときに、一人だけ目立つような演奏の仕方をする姿が見られることがあります。これも学びの芽として捉えることができます。例えば、「その演奏の仕方だと、〇〇な気分が伝わってくるね。みんなで、この演奏の仕方をやってみようか。」などのように、児童の行動に価値づけをして、そこから学習活動を展開するよう意識すると、学びの芽として生かすことができます。

キャッチの視点(記録時の項目例)

児童が教材に対して持つ積極的な思いや願いだけではなく、消極的な思いもキャッチするようにしましょう。その際、表出した行動を否定的に価値付けるのではなく、その背景にある思いや願いを、別の場面での様子と関連付けるなどして慎重に読み取るよう意識することが重要です。

- 範奏を聴いている時の様子や思い、考え
  （リズムをとっている、口ずさんでいる、大きな音がすると表情が硬くなる等）
- 歌ったり演奏したりしている時の様子や思い、考え
  （気持ちよさそうに歌っている、あまり表情の変化を示さない等）

第３期　「新しい・・・」を経験させよう

遠足に行った後「先生、昨日の遠足面白かったね。だって…」と夢中で話しかけてくる児童がいます。ここをきっかけに「新しい」学習活動を行うには…

教科・単元名	国語・みんなにつたえよう
活動のねらい 〇知らせたいことを身近な人にわかりやすく伝えるために、話すときに必要な内容や丁寧な話し方を知り、話すことができる。 〇友達が伝えたいことをわかろうとして聞く。	
いかしたい思いや願い 〇遠足であった楽しかった思い出 〇思い出を家の人や友達に話したい 〇上手に話すことができるかどうか不安	
主な活動の流れ	**教師の投げ掛け例**
①遠足の様子を思い出し、楽しかったことを出し合う（ペア）。 ［遠足の写真を準備しておく］	「遠足は、楽しかった？」 「どんなことが楽しかったか、言える？」 「隣の人と、楽しかったことを話してみよう。」
②みんなに話すときに気を付けたいことについて話し合う。 （いつ・どこで・楽しかったこと、～です。・～ます。）	「隣の人と話したことを、みんなの前で言える人いる？」 「そんなことがあったんだね。楽しかったでしょう。」 「今の、〇〇さんの話し方、『いつ』『どこで』がはっきり分かって良かったと思わない？分かりやすかったよね。」 「今の●●さんの話は、楽しかったことが詳しく伝わって良かったよね。」 「どんなことに気を付けて話すと、分かりやすいのかな？」
③自分がみんなに伝えたいことを考える。	「じゃあ、今みんなで考えたことに気を付けながら、もう一度、遠足で楽しかったことを伝え合ってみようか？」
④聞くときに大切なことを考える。 （相手を見る・話の内容をわかろうとする）	「みんなの前で言える人いるかな？」 「今の△△さんの話は、どんな話だったか言える人いる？」 「話したことがこうやって伝わると、うれしいよね。」 「どんなことに気を付けて聞けばいいかな？」
⑤学習したことをいかして、話したり聞いたりする。	「これで、どんなことに気を付けて話すか、どんなことに気を付けて聞くかわかったよね。」 「じゃあ、今度は、今まで話していた人とは違う人とペアになって、今日分かったことに気を付けながら話したり、聞いたりしてみようか。きっとうまくできるようになったと思うよ。」
主体的に学習に取組む児童の姿（主に③④⑤でキャッチ） 〇進んで自分の楽しかったことを話そうとしている。 〇話し方について、自分が知りたいことを言うことができる。 〇学んだことをいかして、自分の楽しかったことを話そうとしている。 〇友達の話を聞いて、感じたことをつぶやいたり発言したりすることができる。	

背景となる考え方

児童の生活と学習内容のつながりに
必然性を持たせて、自然な学習展開を

活動の留意点

学習において、児童が学ぶ必然性を感じることは、学習意欲につながる重要なことです。国語科の話し方や聞き方の学習では、児童が、話したいことがある、聞く必要があるという願いや思い持ったときをいかして、それを実現できる活動を展開したいものです。

効果的な環境の構成の工夫

遠足で楽しいことを体験し満足できたとき、児童は、そのことを会話や絵、文章などの表現方法を使って、家の人や友達、教師などに伝えたくなるはずです。そうした児童の思いや願いを引き出すための環境の構成として、遠足そのものを充実させることが必要です。児童が興味・関心を持つ場面や活動を予測し、それらに十分関わらせることができる時間、場や人との出会わせ方等を工夫しましょう。

また、国語の授業では、遠足の様子を振り返ることができる写真や具体物等を用意し、必要に応じて提示するといった工夫も有効と言えるでしょう。

児童の学びの芽を生かすポイント

休み時間が終わった後に友達と遊んで楽しかったことを夢中で話したり、校舎内で発見したことを嬉しそうに話したりする姿が見られます。このような様子を学びの芽として捉えましょう。また、児童との日常会話の中から、一人ひとりの児童の好きなことや得意なことなどを捉えようと意識すると、学習時の児童の反応を予測することができます。

キャッチの視点(記録時の項目例)

遠足の思い出を話している姿だけではなく、何を話そうか、どんな風に話そうかと思いを巡らせている児童の姿を見ながら、一人ひとりの児童が考えている内容もキャッチするようにしましょう。また、友達の話を分かろうとして聞いている姿から、望ましい聞き方ができているかどうかを見取るようにしましょう。

- 話し方や聞き方の大切なことについての話合いの様子
- 遠足のことを振り返り、話すことを考えている様子
- 思い出を話したり、聞いたりしている様子

引用文献・参考文献

［引用文献］

文部科学省2011　「小・中学校新学習指導要領Ｑ＆Ａ」http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/qa/1304463.htm（URLは2013年３月取得）

［参考文献］

文部科学省 2008 「幼稚園教育要領解説」　フレーベル館

厚生労働省 2008 「保育所保育指針解説書」　フレーベル館

文部科学省 2010 「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について（報告）」p.4、p.29　http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/__icsFiles/afieldfile/2011/11/22/1298955_1_1.pdf（URLは2013年３月取得）

文部科学省 2013　「幼稚園教育指導資料第１集　指導計画の作成と保育の展開」　フレーベル館

文部科学省 2013　「幼稚園教育指導資料第５集　指導と評価に生かす記録」　チャイルド本社

神奈川県教育委員会 2009 「まなびと学びをつなぐ　小学校と就学前教育の連携　実践資料集」

神奈川県教育委員会 2011 「まなびと学びをつなぐ　小学校と就学前教育の連携　指導資料集」

篠原孝子・田村学　2009 「こうすればうまくいく！　幼稚園・保育所と小学校の連携のポイント」　ぎょうせい

「幼児期の教育と小学校教育をつなぐ　スタートカリキュラム作成ガイドブック」の作成関係者

＜助言者＞

所　　属	職　名	氏　名
文部科学省	教科調査官	津金　美智子

＜神奈川県立総合教育センター＞

所　　属	職　名	氏　名
教育課題研究課	指導主事	渡辺　良勝
教育課題研究課	指導主事	伊野　真司
教育課題研究課	教育指導員	門河　通憲

作成に当たって、参観及び聞き取り調査を実施した小学校・幼稚園・保育園

平塚市立港小学校
平塚市立港幼稚園
平塚市立須賀保育園
平塚学園松風幼稚園
社会福祉法人徳栄会花もんもん保育園

幼児期の教育と小学校教育をつなぐ
スタートカリキュラム作成ガイドブック

発　行　　平成 26 年４月
発行所　　神奈川県立総合教育センター
〒251-0871　藤沢市善行７－１－１
電話　(0466)81-1659（教育課題研究課　直通）
ホームページ　http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/

※本冊子については、ホームページで閲覧できます。

再生紙を使用しています

神奈川県

神奈川県立総合教育センター

善行庁舎
〒251-0871 藤沢市善行 7-1-1
TEL (0466)81-0188
FAX (0466)84-2040

亀井野庁舎（教育相談センター）
〒252-0813 藤沢市亀井野 2547-4
TEL (0466)81-8521
FAX (0466)83-4500

ホームページ　http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/